

「ひのみどり」専用染土の適正使用技術

農業研究センター 工業研究所 加工部
担当者：澤田倫平・田中伸昭

研究のねらい

平成10年度に本県奨励品種に採用された「ひのみどり」は、茎が細く、部分変色茎が少ない特徴を有し、高級畳表生産に適しており、現在、関係機関と連携してそのブランド化を推進している。

このため、「ひのみどり」に適した染土及びその適切な濃度を検討し、畳表の色調等の向上を図る。

研究の成果

- 1 「ひのみどり」に適する染土は、ブランド化のため新たに導入したひのみどり専用染土(備後産の新たな染土)と淡路産染土を同量混合したものであり、これを利用して生産した畳表は明るく(明度が高く)、色調も優れた。
- 2 「ひのみどり」を原料とする畳表は、染土濃度が高くなるほど染土付着が良好となり、評価が高くなる。その適切な濃度は、縦水切りで28～30ポーム、横水切りで24～26ポームである。
- 3 10アール当たりの染土使用量は、縦水切りで750kg(28ポーム)、横水切りで650kg(24ポーム)であり、淡路産染土単体の場合と比較し、100～200kg多い。

普及上の留意点

- 1 横水切りの場合、乾燥むらが生じる恐れがあるので、定められた染土濃度(28ポーム)より高濃度で泥染めを行わないようにする。

表1 畳表の評価

	染土 付着	色調	白さの 度合	備考
淡路染土 + 備後染土	3.6	3.6	3.4	パネルーの評価が安定して良好
淡路染土 + 専用染土	3.0	3.8	4.2	
淡路染土単体 (標準)	3.0	3.0	3.0	
備後染土単体	2.6	3.0	3.0	問題点あり：パネルーの評価分散, 経済性
専用染土単体	3.0	4.0	4.6	

注1) 観察評価基準 (パネルー20名): 染土付着: 色調: 不良1 - 良5、白さの度合: 弱1 - 強5

注2) 淡路染土は、くみあい染土を使用した。

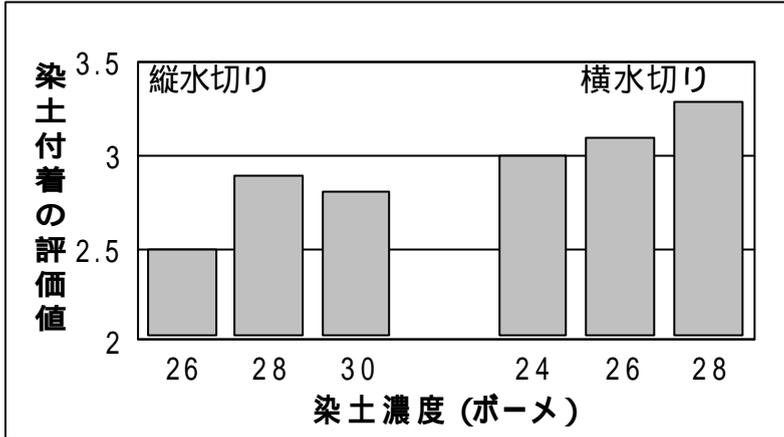


図1 染土濃度と染土付着の関係

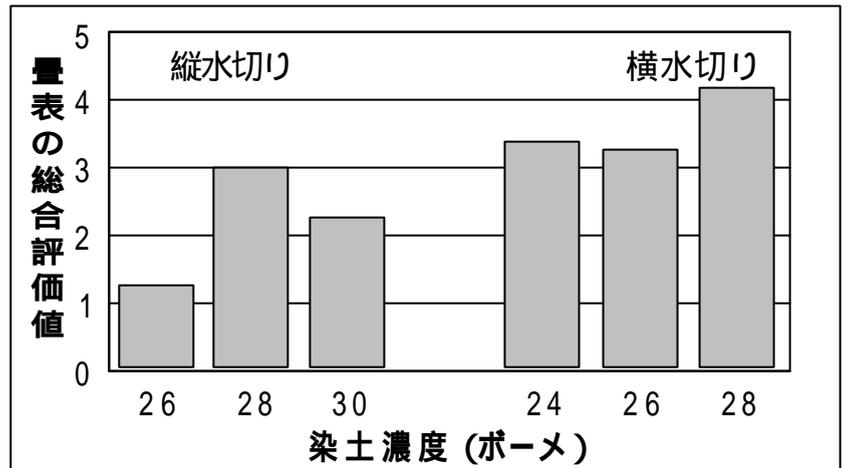


図2 染土濃度と総合評価の関係



写真1 淡路染土とひのみどり専用染土 (左: 淡路染土 (くみあい染土) 右: ひのみどり専用染土)